



長照寺だより

# わげんあいご 和顔愛語

浄土真宗本願寺派(西本願寺) 撰取山 長照寺 静岡県三島市徳倉1195-817 電話055-988-4242  
URL <http://cyoshoji.or.jp> E-mail: [info@cyoshoji.or.jp](mailto:info@cyoshoji.or.jp)



イグアスの滝にて



伯国別院(ブラジル)正面



南米開経60周年慶讃法要

「思もよらない人が過分の贈物を持ってきたときは、何かわけがあるに違いないと思いなさい。人からものを贈られると、うれしく思うのが人の心だから何かを頼もうとするときは、人はそのようなことをするものである。」

(蓮如上人御一代記聞書より)

# 葬儀は勤めるべきだ

住職 本持愚山



非常に悲しい本が世の中に出回っています。しかもその著者の方々は宗教学者と公言しているのであるが、一体何を学んで宗教学者なのか。あらためて「宗教とは」と問いたい。

世界の三大宗教とは皆様もご存じのとおり、仏教・キリスト教・イスラム教と知るところであり、これらの宗教がもつ教えは、基本的に人間の生き方が説かれている。もう少し言うならば、全人類が差別なく平和で健康な人生を歩むにはどうしたらよいのかを教導の言葉として残されているのが「お経」・「バイブル」・「コーラン」なのである。それはすべからく命の尊さが説かれ繋がれてきた「命」として。また、継続されていくであろう「命」の諸問題が説かれているのである。これを仏教的にいうならば、今日の自分の存在は、両親を含



めそのまた両親、いわゆる祖父父母であり、祖父父母の両親とさかのぼると一体何人の人々が自分と関わってきたのであろうか。

そう、「命」が繋がってきたのであろうか。単純に計算して十代さかのぼって千二十四人、千二十三人では今日の自分は存在していません。こうして考えてみると、この数字は大変なことなのです。

さて、このような事柄を現代人は何時知り得るのだろうか。普段の生活の中でこうした数字を考えて、「俺は私は生かされて生きていく」のだと思いつつながら生活している人がいるだろうか。人間に生まれさせていただいた、選ぶことのできない世界に「人」として生まれてきた。このような考えで人生を歩んでいる人がいるでしょうか。

そこで、前述の思いや考え方を知ることができるとき、それが「葬式」の場と言えるのです。生きとし

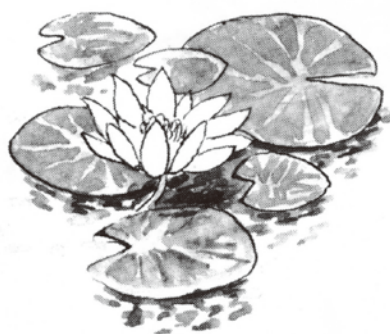
生けるものには一つの命が終わる。そして次の繋がりを感じ取る事ができるのが「葬式」なのです。現代社会に目を向けたとき、数年前から核家族化が進み、身内の死に向かい会わない子供が多くなってきている。そんなおり、親戚の方が亡くなられた葬儀に参列する。すると、否応なしに死と直面し、命の重さや命の意味、死とは何であるか、さらに自分の存在を知らされるのである。これぞ亡き方からのメッセージであり、人間に生まれさせていただいた尊さを知る最大の良き場と同時に、悲しい事ではあるが、自己の発見にも役立つと言いたい。

従いまして、今だからこそ「葬式」は必要なのです。動物の世界で「弔う」事をしますか？ちよつと想像してみてください。路上でひかれて何日も放置されている犬猫の死骸を見た事があるでしょう。これが「人様」だったらどうしますか。百パーセント放つてはおきません。何らかの対応を即刻おこないます。このように普段何気ない現実には実は大きな意味のあることを思い起こすべきなのです。それを知らさせてくれるのが「葬式」なのです。

すなわち、人間が人間らしく生きる根本原理として学ぶことができるのは「生死」を問われる場こそ「葬式を勤める」「弔いをする」ということではないでしょうか。

以上の観点から宗教学者と公言をはばからない方々に物申します。それは、いざというときがきますと、「散骨」「樹木葬」と言いつつ、やはり宗教的な手段を行おうとしているではありませんか。いわゆる「お骨」に執着していることと何ら変わらないのでは。つまり「式」を出さずとも「弔う」方法が違うだけで、結局宗教的情操に基づくものではないでしょうか。確かに現代社会では皆様が言うように「葬式」に多くのお金が必要と思っていますが、「葬式」と「経費」とは全く違う問題ととらえなければ、人間とし生まれさせていだいた価値を見失ってしまうでしょう。どうぞ無宗教などと言わず、無信仰であったと正直に言ってくださいれば、それぞれのご本の意味を理解することができます。ですから「葬儀・葬式」は現代社会にこそ絶対必要な儀式として伝えていきたいものです。

合掌





東京教区仏壮研修会

平成二十二年二月二十日

二十一日

山梨県

先輩方々を敬いながら、若い者とも共生きの強化団体です。



初参式 平成二十二年三月十四日

杉山 瑞姫(みずき)ちゃん

※平成二十二年十二月二日生

誕生の喜びを仏様に報告し、感謝するお参りです。

※写真は8ページにも掲載



春季彼岸会法要

ご講師 竹岡 幸徳師

下田・寶福寺にもゆかりのあった坂本龍馬についてのご講演に、時間のたつのも忘れ聞き入りました。

平成二十二年三月二十日

一九〇余名



祝入園・入学慶讃法要

江越 郁登(いくと)くん

※平成十五年九月十六日生

「命のつながり、命の尊さ」を伝えていくお参りです。

平成二十二年四月四日

※写真は8ページにも掲載



花まつり

「お釈迦様の誕生日」

平成二十二年四月四日

五〇余名

お参り後、桂 平治 師匠の落語を楽しみました。



## 第三十二回門信徒会親睦ゴルフコンペ

平成二十二年四月十九日

…新天城にらかつゴルフクラブ

優勝 鎌野 善章さん  
準優勝 小坂 正義さん  
第3位 飯塚 栄照さん



## 第七回門信徒会親睦 ボウリング大会

平成二十二年四月二十五日

…ジョイランドみしま

参加者全員、楽しく  
ボウリングをしました。

※写真は8ページにも掲載



## 門信徒会定期総会

平成二十二年五月二日

…四〇余名

おかげ様で、各議案とも  
ご承認いただきました。



## 静岡東組組会・総代研修会

平成二十二年五月十三日

…伊東市・寶専寺

静岡東組の組会が、寶専寺で開催されました。

## 東京教区仏壮研修会

平成二十二年五月二十三日

…築地別院

先輩方々を敬いながら、若い者とも共生きの強化団体です。

## 初参式

平成二十二年五月二十八日

藤澤 咲樹(さき)ちゃん

※平成二十二年二月六日生

誕生の歡びを仏様に報告し、  
感謝するお参りです。

※写真は8ページにも掲載



新発意しんぼつち(後継住職)あいさつ

本持 信宗

無事帰ってまいりました！

よろしく願います！

大学で学ぶため京都に行っていました。当初の予定より少々長引いてしまいましたが、卒業して実家のお寺へ帰る予定でした。しかしこのまま帰っても今の私にはお寺の役に立てる事が出来ないと思い、しかもまだ宗派の勉強もおぼつかない自分である事に気づかされ、宗門関係の機関で勉強させてもらおうと決めました。そして浄土真宗本願寺派西本願寺にある勤式指導所という機関で勉強させてもらうことになりました。勤式指導所というところは、主に作法や御経の読み方など勤行の基礎を習うところです。指導所で勤行の基礎をしっかりと教えていただき、この度無事お寺へ帰って来ることとなりました。

まだまだ未熟者ではありますが、皆様のお力をお借りし共にここ長照寺を盛り上げてゆきたいと思っております。皆様よろしく願います。

合掌

## 今後の活動予定

| 月 日          | 内 容               | 場 所     |
|--------------|-------------------|---------|
| <b>平成22年</b> |                   |         |
| 7月25日(日)     | 境内清掃作業・親睦懇親会      | 境 内     |
| 8月13日～15日    | 合同盆法要(全8回)        | 本 堂     |
| 9月7日～9日      | 門信徒会親睦研修旅行        | 北海道方面   |
| 9月23日(木)     | 秋季彼岸会法要(午前・午後2席)  | 本 堂     |
| 9月26日～27日    | 門徒推進員養成連続研修会(2回目) | 下田市     |
| 10月19日(火)    | 門信徒会親睦ゴルフコンペ      | 未 定     |
| 10月24日(日)    | 門信徒のつどい           | 西光寺     |
| 11月14日(日)    | 報恩講・座談会・茶話会       | 本 堂     |
| 12月2日～4日     | 門信徒会作品発表会(末広和顔会展) | 三島商工会議所 |
| 12月5日(日)     | 境内清掃作業            | 境 内     |
| 12月31日(金)    | 除夜会               | 本 堂     |
| <b>平成23年</b> |                   |         |
| 1月4日(火)      | 修正会・新年会           | 本 堂     |
| 1月12日～13日    | ご正忌報恩講            | 西本願寺    |
| 1月29日～30日    | 門徒推進員養成連続研修会(3回目) | 築地別院    |
| 2月13日(日)     | 寺報(第25号)発行        |         |
| 3月21日(月)     | 春季彼岸会法要           | 本 堂     |

※各行事は、予定ですので、その都度、寺から案内を送付します。  
 ※定例法座は毎月第1土曜日 午後7時より本堂にて開催。  
 ※その他に親睦の集いを募集・計画中。

(日頃の忙しさから解放されて  
 気持ち軽くなる自分を発見  
 できるかもしれません。)

門信徒会親睦海外研修旅行 平成二十二年六月二十八日〜七月七日

## 南米開教六十周年

「世界は広い」

朝十時頃お寺に集合、私にとって  
ほぼ初めてと言える海外旅行が始ま  
りました。参加者を乗せた車はまず  
成田空港へ、出国手続きを済ませ一  
路リオデジャネイロへ。

長い機内での時間を終え無事ブラ  
ジルに到着。飛行機を降りて深呼吸  
をした瞬間に匂い、雰囲気の違いを  
感じ本当にここは日本ではないのだ  
なと思いました。リオデジャネイロ

は市内観光や奇岩ボン・デ・アスカ  
ール、コルコバードの丘、コパカバ  
ーナビーチを観光し、どこもスケール  
が大きくて日本では考えられない  
ような場所ばかりで驚きの連続です。  
リオデジャネイロの季節は冬だった  
そうですが、町の人は短パンにビー  
チサンダルといったスタイルが多く  
てとても冬だとは思えない気候でし  
た。

次に訪れた場所はイグアスです。  
実は個人的に今回の旅行の中で一番  
楽しみにしていた所です。世界遺産

イグアスの滝、世界最大の滝、名前  
を聞いただけでもそのすごさを想像  
する事が出来るのですが実際に滝を  
目の当たりにした時、私の想像を遙  
かに超えた大きさの滝が目の前に広  
がっています。それはもう私の知る  
限りの滝ではなく、何とも言い表せ  
られないただただ感動のため息が漏  
れる光景です。

イグアス初日はブラジル側から遊  
歩道を歩きながら滝を観光し、次の  
日はアルゼンチン側からイグアスの  
滝、通称「悪魔ののど笛」と呼ばれ  
る滝壺を観光しました。こちらはこ  
ちらで地球にポツコリと巨大な穴が  
開いてそこへ大量の水が流れ落ちる  
といった感じで、もの凄い迫力です。  
イグアスでは日本では見られない雄  
大な自然、壮大な景色を見ることが  
出来て世界の広さを感じさせて頂き  
ました。

最後はサンパウロへ行きこの旅行  
最大の目的である南米教団開教六十  
周年記念慶讃法要にお参りさせてい



本  
持  
信  
宗

たきました。法要には多くのご門  
徒方がご参拝されており、日本のご  
門徒方に負けない熱心が伝わって  
きます。また日本の真反対に位置す  
るこんなに遠い国にも供にお念仏を  
喜ぶ心がしっかりと伝わっているの  
だなと感動しました。

ブラジルの方々は皆優しく温かく  
日本から来た我々を歓迎してくれま  
した。法要は国民性からか時間通り  
とはいきませんでした。こちらの  
方々のおおらかさを表しているかの  
様でほほ笑ましいことです。今回の  
旅行では色々な場所を訪れ、多くの  
体験をさせていただき、日本を出て  
みればこんなにも広い世界がひろが  
っているのだなと身にしみました。  
これからも色々な場所へ行き視野を  
広げていきたいです。またこの旅で  
関わったすべての人々に感謝です。  
そして良い勉強にもなりました。あ  
りがとうございます。

合掌



コルコバードの丘にて



伯国別院入り口にて



イグアスの滝上空より



## 平成22年度上期の行事



初参式(平成22年3月14日)  
杉山 瑞姫(みずぎ) ちゃん



慶讃法要(平成22年4月4日)杉山  
江越 郁登(いくと)くん



第七回門信徒会親睦ボウリング大会  
(平成22年4月25日)



初参式(平成22年5月28日)  
藤澤 咲樹(さき) ちゃん

### 一言 法話

#### 「縁なき衆生は、度し難し」

世の中は全て「縁が重なり、一つ事が完成します。どのように立派な事も重なる縁に依っては、悪い結果になります。日々の生活も人間関係ばかりではなしに、目標に向かう者の志しも良い縁が、重なる様努力したいものです。

### 心の窓を開く

#### ラジオ法座

FM三島函南 77.7MHz

毎週水曜日

お話／当山住職

朝7時45分(5分間)

●法話をまとめた小冊子第1～5巻が発行されています。  
お尋ねください。

### 編集後記

- ☆お寺からのお便りは、家族皆さん必ず読んで頂く習慣をつけましょう。
- ☆お寺は「よろず相談処」です。日頃悩んでいる事がありましたら、何でもご相談ください。
- ☆次回寺報は、平成23年2月13日(日)発行予定です。

●ご意見・ご要望は、寺務所まで  
〒411-0044三島市徳倉1195-817  
TEL・FAX 055-988-3900  
編集人＝長島・菊沢・斉藤・園田